



# このはつうしん

水田にも出会えたよ。  
田植えの小さな生き物。



東海大学今年も  
教員研修  
のゼミ生と一緒

あきる野市菅生の地で取り組む四季折々の体験学習「ゆたか」の情報を発信。感じよう、里山！

## 「田植え実習」 教員研修

今年も東海大学藤吉研究室のゼミ生と稲の田植えを行いました。場所は神奈川県伊勢原市にある水田。この辺りでは5月下旬から6月上旬にかけて田植え



を行い、千葉県などに比べて1カ月ほど遅れるそうです。ただ、今回植えた酒米「五百万石」は成長が早い早生（わせ）品種で、収穫は

9月末頃。水田を管理されている東海教育産業株式会社の勝見さんによると「五百万石」は酒米の中でも「山田錦」に次いで生産量2位を誇ります。

天候が不安定でしたが、田植え中は雨も降らず、無事に作業を終えることができました。また、水田周辺の生物調査も行い、藤吉先生からは3種類のカエルについて詳しくレクチャーしていただきました。



### アマガエル

樹上での生活に適応し、前足と後足の指先に吸盤があるため、枝から枝に飛び移ったり、垂直面に張りついたりできる。



### ツチガエル

水田など水辺からあまり離れずに生息している。指に吸盤はなく、後足の指の間には発達した水かきを持っている。



### トウキョウダルマガエル

トノサマガエルに似るが体型が太く後脚が短い。ツチガエル同様に水かきが発達し、泳ぎが得意。



全てのカエルが水辺に生息しているわけではなく、生息する場所に合わせて形態にも違いがあることがわかりました。また、この辺りがかつて食用にもされていたアカガエルは近年の水田周辺の水路整備などの環境変化により、生息数が減少しているとのことでした。

他にもコガムシやアメリカザリガニ、マルタニシ、カワニナも確認できました。水田などの里山環境は人の手が入り続けることで生態系の維持につながります。また、私たちが日本のお米を消費することがこうした生態系を育むことにつながるといふ、藤吉先生のお話にも考えさせられました。ちなみに本実習で収穫した酒米は、東海教育産業が販売する日本酒「魂乃鼓（たまのつづみ）」の原料の一部となります。



## イベント情報

- ★6/10 (土) スッガニア-English-
- ★7/1 (土) スッガニア-Nature-

英語の授業を受けながら、楽しくうちわづくりを行います。  
ゆたかの授業体験。どちらも年長児対象、予約はHPより。